

(代表質問)

質問日	令和6年6月4日（火）		質問方式	分割方式			
質問順位	3	会派名	創造浜松	議席番号	21	氏名	遠山 将吾
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 中期財政計画について	新清掃工場・天竜エコテラスや浜松医療センターの建設事業などの大型公共事業が終わり、財政的な負担は増加したものの、当初予算の説明では、現行計画の目標値は達成できていない状況ではあるが、決算時には、達成し得るということであったかと記憶している。 次期計画については、今後の本市のあるべき姿を作る上での基盤となり、本市として最も取り組むべき事業を中野市長がどう考えるのか、それに対する財政運営など、市政運営の方向性が大いに問われる。 そこで、以下について伺う。 (1) 最終年度となる今期の中期財政計画に対する所感について (2) 次期計画期間を取り巻く社会的、経済的な環境を踏まえて、次期中期財政計画に関する考えについて						中野市長
2 少子化対策について	(1) 本市では、少子化対策について、これまでも、さまざまな施策を展開してきたが、成果が上がっていない。 しかし、時間的な制約は待ったなしであり、出生数は急激な減少局面に來ていると認識している。 そこで、少子化対策についての時間的な制約についてと対策への決意について伺う。 (2) 少子化対策の事業体制について、データ収集・分析・施策の展開・検証を行う上では、専門部署の必要性を改めて感じる。 そこで、少子化対策に対する庁内連携の成果と課題、本市最大の課題である少子化対策を専門に行う部署、担当の役職者の設置を検討することはないか伺う。 (3) 少子化対策に関してのデータ活用と解析からの課題抽出について、今まで以上に具体的、詳細なデータを収集し解析することで現状把握を行い、今後は、その解析したデータを基に政策を立案していく必要がある。 例えば、少子化対策と子育て政策については、区別されるべきものであり、本市のリソースを注力すべきところを、どう考えていくのかも、データに基づく根拠も提示し、明確にしていくことが重要である。 そこで、これまでのアンケート調査により集まった主観データと、本市が把握、収集した客観データの分析を基にした政策立案への活用の現状と今後について伺う。						中野市長 山名副市長 吉積こども家庭部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
3 地域の児童福祉について	(1) 社会的養護について 家庭での養育が困難な青少年が利用する施設に自立援助ホームがあり、国においても、社会的養護は、地域で、小規模で運営される方向に向かっている。 自立援助ホームなどの施設には入所枠があり、全てを本市に割り当てられるわけではなく、県の枠、静岡市の枠があり、入所枠に空きがあっても、本市の枠が埋まってしまっていると、本来であれば入所を希望する本市の青少年が入所できない状況である。 そこで、以下の点について伺う。 ア 本市の自立援助ホームなどの社会的養護施設の現状について イ 県・静岡市の役割分担と入所枠の柔軟対応の可能性について (2) 児童福祉の支援体制について 児童の課題は、学校が第一発見者になることが多い。その後、スクールソーシャルワーカーと主任児童委員の連携、その後学校、主任児童委員、スクールソーシャルワーカーから、行政や専門機関、地域の活動団体などと連携して対応していく。 しかし、確実に専門的知識を持っているとはいえない主任児童委員や地域の活動団体のスタッフなどが、一番身近で課題に接しており、専門的な指導や知識の基で、どのように課題に当たっていくか、何をしてはいけないかなども整理・理解することが必要な場合もある。 そこで、以下の点について伺う。 ア 学校と地域の児童福祉の担い手との連携の課題と今後の取り組みについて イ 地域で課題を抱える様々な年代の子どもの支援体制について (3) 市立幼稚園・保育園の基幹園について 「浜松市立幼稚園・保育園の適正化等に関する方針」を策定し、地域全体の幼児教育・保育の質の向上を図る役割を担う「基幹園」を選定し、令和6年度より、モデル園において、具体的な事業に着手することとなっている。 基幹園は、地域全体の幼児教育・保育の質の向上を目的としており、専門家や地元との連携、周辺の私立園との情報共有も必要であり、方向性を誤ると事業自体が進まなくなること考えられる。 本市の市立園には発達に課題を抱えた子や外国籍の子が多いという特徴もあり、その地域で、非常に重要な役割を担っていることを踏まえて、以下の点について伺う。	吉積こども家庭部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	ア 市立幼稚園・保育園の役割について イ 基幹園の役割について ウ モデル園における協議会の設置について エ モデル園における専門家との連携について オ 地域との連携について	
4 歴史・文化のまちづくりについて	(1) 歴史・文化のまちづくりについて このところの大河ドラマの影響もあり、家康公を踏まえた歴史が本市の中でも大変クローズアップされてきた。 そこで、以下の点について伺う。 ア 家康公等本市の歴史を活用した取り組みと成果について イ 歴史・文化の活用を通じたブランド化における課題と今後について (2) 今後の文化財等の都市ブランディングへの活用について 本市には、本市の所有、民間の所有のどちらにも、まだまだ発信しきれていない多くの歴史的・文化的資源があり、活用の余地があるように感じている。 そこで、以下の点について伺う。 ア 民間所有の文化財等の公的管理の考えについて イ 市民に対する文化都市のポテンシャルを伝える方法、各年齢層に届くような施策の展開について	齊田観光・ブランド振興担当部長 嶋野文化振興担当部長
5 地域スポーツの振興について	本市は社会体育の推進を目的として、小中学校の施設を地域に開放し、地域の方々が気軽にスポーツに取り組む環境を整えている。しかし、管理費用面の市と地域、学校の役割などの課題の声も上がっている。今後も、市民協働による地域スポーツ振興が円滑に図られるために、以下の点について伺う。 (1) 本市の社会体育に求める役割と地域スポーツ振興の考えについて伺う。 (2) 小中学校スポーツ施設開放事業スマート化の現状と決済方法の拡充について伺う。 (3) 市と施設利用委員会の役割分担と負担の考えについて伺う。	杉田スポーツ振興担当部長
6 土地改良施設の効率的な管理について	水利組合の役員の高齢化が進み、次世代を担う人材の掘り起こしも難しいなか、農業用水路は、基幹的施設から末端まで一体的に機能することで、その効果が発揮されるものであり、関係者が連携し、施設を効率的かつ適切に管理する必要がある。 そこで、行政の施設管理における効率化に資するデジ	清水農林水産担当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	タル化の進捗と現場の諸条件などをデータに反映させる仕組みについて伺う。	